

平成19年第2回木津川市議会定例会 開会あいさつ

本日ここに、平成19年第2回木津川市議会定例会をお願いいたしましたところ、議員の皆様には何かとご多用のところご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、今年の7月の始め頃は、比較的過ごしやすかったものの、8月に入りましてからは、うだるような猛暑が続きまして、岐阜県多治見市や埼玉県熊谷市で観測史上最高気温を観測するなど、地球温暖化によりますます気象変動を考えさせられる夏でございました。

しかしながら、9月に入りましてもまだまだ暑い日が続いております。議員の皆様におかれましても、体調管理には十二分にご配慮していただきますようお願いいたします。

それでは、本定例会冒頭の貴重な時間を頂き、市政の状況等につきまして、ご報告させていただきます。

まず始めに、加茂カントリークラブのフェロシルトについてであります。

既に議員の皆様もご承知のことと存じますが、去る9月7日に石原産業から、フェロシルトを含む汚染土壌の撤去が完了したとの報告を受け、一安心しているところでございます。

赤田川の問題も含めまして、これら課題の解決にむけましては、本市のみならず、関係する団体との連携が必要不可欠でございます。

したがいまして、機会のあるごとに、京都府をはじめ関係者との協議をしておりまして、去る9月5日には改めまして京都府庁に出向き、協力要請をお願いしたところでございます。

今後におきましても、関係する皆様との連携を密としながら、これら課題の解決に向けて努力することで、市民の皆様の安全、安心を確保してまいりたいと考えております。

次に、清掃センター建設に向けた取り組みについてであります。

改めて申し上げるまでもなく、清掃センターの建設は、木津川市にとりまして喫緊の重要課題でございます。

市長選挙における、私のマニフェストでもお示しいたしましたとおり、この課題の解決に向け取り組むプロジェクトチームを庁内に設置し、去る8月23日に初会合を開催いたしました。

この協議の場では、清掃センター建設予定地が木津中央地区に決定されるまでの経過等につきまして、確認をした後、今後の検討手法、方向性等につきまして様々な提案や問題提起がなされたところでございます。

また、「都市計画」をはじめ、「学研都市」や「財政問題」について、より専門的な検討を深めるために、「木津中央特定土地区画整理事業地における清掃センター建設に係る諸問題検討グループ」、並びに「関西文化学術研究都市(木津川市域研究開発地区)における清掃センター建設に係る諸問題検討グループ」、そして「清掃センター建設に係る財政問題検討グループ」の3つのワーキンググループを設けることとしたところでございます。

今後はより具体的な協議を進め、できる限り早期に最善の方法で、この課題が解決できるよう取り組みを進めて参りたいと考えております。

次に、子育て支援対策についてであります。

夏休み中に実施いたしました「夏休みこどもプラン」では、市内9小学校の5年生と6年生の留守家庭児童合計 39 人を、放課後児童クラブで受け入れいたしました。また、木津川市の放課後子どもプランを作成するために設置いたしました「放課後子どもプラン運営委員会」も既に2回開催し、活発な意見がかわされており、年度末には木津川市独自の「放課後子どもプラン」の基礎が完成するものと期待しているところでございます。

次に、総合計画審議会についてであります。

総合計画審議会の公募委員につきましては、去る8月6日から8月20日までの15日間を応募期間として募集いたしましたところ、旧木津町地域で12名、旧加茂町地域で12名、旧山城町地域で3名、合計27名もの多くの方からご応募いただきました。応募多数のため、8月30日に抽選を行い、3名の公募委員を選出し、現在、第1回の審議会開催に向けて準備を進めているところでございます。

次に、地域審議会についてであります。

合併前の旧加茂町と旧山城町の区域ごとに設置いたしました地域審議会の公募委員につきましては、去る7月9日から7月20日までの12日間を応募期間として募集いたしましたところ、旧加茂町地域で18名、旧山城町地域で4名、合計22名の応募がございました。これにつきましても、応募定数を越えていたため、7月25日に抽選を行い、それぞれ2名の委員さんを選出いたしました。そして、識見の委

員さんと合わせ、それぞれ 8 名の委員さんで、8 月 29 日に第 1 回の地域審議会を開催し、正副会長を選出していただき、議事の進め方を始め、地域審議会の役割、そして合併協定及び新市基本計画の位置付け等についてご確認いただいたところでございます。

次に、行財政改革に関する取り組みについてであります。

地方公共団体を取りまく環境は、非常に厳しく、行政運営にあたりましては、限られた人員や財源で質の高いサービスを提供し、市民が納得・満足する行政を実現することが求められております。そのためには、職員一人ひとりが自覚と責任を持って業務に取り組まなければなりません。

本市では、常に市民の視点に立った行政運営を共通認識とし、限られた資源を効果的に活用し、市民サービスを提供するよう、常日頃から指示しているところでございます。このような中で、去る 8 月 9 日から 9 月 3 日にかけて、37 の所属長から時間外勤務の削減をはじめ、各所属所の執行目標を提出していただきました。その結果、99 項目に及ぶ平成 19 年度の執行目標を設定したところでございまして、今後、その目標の実現に向け、努力してまいりたいと考えております。

また、木津川市行財政改革推進委員会の公募委員につきましては、9 月 20 日を締め切りといたしまして、現在、募集しているところでございます。

次に、合併記念式典についてであります。

来る 11 月 17 日に木津川市中央体育館におきまして、合併記念式典を開催する予定で、現在調整を進めているところでございます。議員の皆様には、後日正式にご案内をさせていただきますので、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、議員の皆様もご承知のこととは存じますが、去る 5 月 10 日に新聞報道されました同志社国際小学校構想に対する誘致についてであります。

このことにつきましては、財団法人関西文化学術研究都市推進機構から学校法人同志社に提出されました「けいはんな学研都市への教育施設の設置の要望」を受けまして、学校法人同志社が、現在、検討を進められているものでございます。

また、学研都市のサード・ステージ・プランにおきましても、アジアをはじめ世界に開かれた都市を目指しての項目の中に、国際化に向けた都市環境の整備がうたわれ、外国人研究者の受け入れのための環境整備を推進し、家族のための教育環境の整備について検討していくことが重要なテーマとして提案されているところであります。

現在、学研都市で働く外国人研究員は、約 230 名おられます。これら多くの研究員の皆様は、家族で住んでおられる方も多くおられまして、外国語によります教育を受けするため神戸方面に通っておられる方もあると伺っております。

同志社国際小学校の誘致に手を挙げます背景には、このように学研都市としての機能が充実し、働いておられる外国人研究者の利便性が向上するばかりでなく、市内の小学生にとりましても選択肢が広がるというメリット、更には、自治体間競争が激しくなっております現在におきまして、本小学校が立地することで、学研都市木津川市としての大きなイメージアップにもつながるものと考えております。

ボーダレス時代におきまして、この学校で学んだ生徒がその能力を十分に発揮し、真の国際人として世界各国を舞台に活躍し、木津川市とわが国日本の発展のために貢献することが、大いに期待されるのではないかと考えております。

新聞報道によりますと、学校法人同志社は、学研都市がある2市1町の中で探したいとのことであります。

学研都市の一員であります、わが木津川市といたしましても、構想の詳細はつまびらかではございませんが、ここで同志社の新小学校構想の誘致を表明し、併せて、議会議員のみなさまにおかれましても、本件に対します格別なご支援とご理解を賜りたいと考えているところでございます。

なお、この新小学校構想に対する候補地につきましては、様々な観点から、最適地を精査してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、本定例会にご提案いたしております議案等につきましては、お手元にお届けいたしておりますとおり同意が 2 件、認定 35 件、議案 15 件、報告につきましては、誠に申し訳ございませんが、本日 5 件を追加させていただき、合計 9 件となっております。

詳細につきましては、後ほど説明させていただきますので、よろしくご審議いただき全議案ご議決ご同意いただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが開会のごあいさつとさせていただきます。